

## 二宮町の由来

大和朝廷による国家統一が進んだ4世紀ごろ、二宮は師長(しなが)国に属していましたが、大化の改新によって国部制が敷かれると、師長国は相武(さがむ)国と合併し、相模国となりました。旧相武国の一之宮であった寒川神社と、旧師長国の一之宮だった川勾神社は、新しい相模国の一之宮を争い、結果、川勾神社が二之宮となりました。以来、川勾神社のある地域を『二宮』と称するようになったことが由来です。この由来は国府祭(祭・イベントを参照)の座問答で語られています。

## 二宮町の二つの物語

### 吾妻山物語

～日本武尊と弟橘媛命の深い愛～

古代、日本武尊が天皇の命により東征に向かう道中、船に乗って三浦半島の走水から上総へ渡ろうとしていると、突如暴風が起こり、一行は船もろとも沈みそうになりました。一行を案じた日本武尊の妻・弟橘媛命が、海の神の怒りを鎮めるため自ら海中に身を投じると、海はたちまち静まり、一行は命を取り留めることが出来ました。その後、現在の二宮町の袖が浦海岸に弟橘媛命の櫛と衣の袖が流れ着き、吾妻山山頂に埋められました。その場所が現在の吾妻神社であると伝えられています。日本武尊と弟橘媛命の深い愛と思いやりの心は、二宮町の風土に今も息づいています。

## ガラスのうさぎ

E7

太平洋戦争終結直前の昭和20年8月5日、二宮駅周辺は艦載機P51の機銃掃射を受け、幾人の尊い命が犠牲になりました。この時、目の前で父を失った12歳の少女が、その悲しみを乗り越え、けなげに生き抜く姿を描いた戦争体験記『ガラスのうさぎ』(高木敏子さん著)は国民の心に深い感動を呼び起こし、戦争の悲惨さを強く印象づけました。この出来事を後世に伝えるため、多くの町民の募金により昭和56年に二宮駅南口広場に『ガラスのうさぎ像』が建てられました。少女が胸に抱えているのは、父の形見となったガラスのうさぎです。



# 二宮町紹介



海と緑に囲まれた湘南のまち二宮町。海が、山が、星が、花々が、美しいまちです。ちよつと行けば都会で、ちよつと行けば田舎で、お出かけするにもちよつとよい距離。とても優しく、なんだか懐かしくて笑顔でいられる、心地よいふるさとのような感覚。豊かな時間を、家族と一緒。

移住定住促進  
パンフレット  
「湘南にのみやLife」



# 公園紹介



## 吾妻山公園(かながわの公園50選) C6 C7 D7

約300段の階段をのぼり、散策道を抜けてたどり着く山頂付近では、緩やかな斜面一面に芝生が広がり眼下には青い相模湾を見渡せます。中央にある小高い展望台から見られる360度の大パノラマの眺望は、絶景の一言。

北には「丹沢山塊」、西から南にかけては「富士山」、「箱根連峰」、「伊豆半島」が連なり、水平線には「大島」が浮かびます。冬には「房総半島」まで見ることが出来ます。

園内は年間を通じて様々な花が咲き、春には「桜」、初夏には「あじさい」、夏から秋にかけて「コスモス」、そして冬には「早咲きの菜の花」を見に多くの観光客が来場しています。

登り口は全部で4か所あり、約300段の階段をのぼって散策道を抜ける、駅から登り口まで徒歩5分の「役場口」、階段が苦手な方には、山道をゆっくり時間をかけて登る、駅からのぼり口まで徒歩25分の「中里口」など、登山者の体調に合わせてコースが選べます。

●開園時間/8時30分～17時 ●年中無休

## 吾妻山 菜の花 ウォッチング



この公園の菜の花畑でわたしたちは出会ったよ



## 早咲きの菜の花

1月上旬～2月中旬にかけて約60,000株の早咲きの菜の花を来場者楽しんでいただく、全町あげてのおもてなしイベント「菜の花ウォッチング」を開催しています。富士山と斜面いっぱいに広がる黄色い菜の花との見事なコントラストは、撮影スポットとしても毎年多くの方を魅了しています。開催期間中は、地場産品販売会、レシートラリーなど、吾妻山公園だけでなく二宮全体を満喫できる内容が満載となっています。



## せせらぎ公園

B3

豊かな自然に囲まれ、木道からは「かながわ花の名所100選」に選ばれている「ハナショウブ」や「アジサイ」など(6月上旬～7月中旬頃)を觀賞しながら散策を楽しむことができる公園です。

●開園時間:8時30分～17時  
●年中無休



## ラディアン花の丘公園 E5 E6

9月には彼岸花、秋には紅葉も楽しむことができ、子ども向けの遊具「ふわふわドーム(無料)」も大人気。

散策路は自然に囲まれた小道になっており、途中富士山を望める展望台もあります。※雨天の場合と毎週月曜日は清掃点検のため、ふわふわドームはお休みとなります。

●開園時間:8時30分～17時  
●不定休(隣接する二宮果樹公園で薬剤散布を実施する日は休園)

